

はじめに

兵庫県教育長

武田 政 義

画一性から多様性、創造性へと社会の成熟化が進む中、子どもたち一人一人の個性をのばし、確かな学力や豊かな心をはぐくんでいくことが求められています。そのためには、学校が、保護者や地域住民の信頼にこたえ、家庭や地域社会と連携協力して、地域全体として子どもたちの成長を支えていくことが重要です。

このため、各学校は、学校運営の状況について自己評価を行い、評価結果に基づいて学校運営や指導方法等の改善を図るとともに、その結果を含めて保護者などに積極的に情報提供することを通じて、説明責任を果たしていくなど、地域に開かれた学校づくりを一層推進していく必要があります。

こうしたことから、県教育委員会では、この度、各学校が地域や学校、子どもたちの実態に即して自己評価を行う学校評価システムを構築する指針となる「学校評価ハンドブック」を作成しました。各学校においては、このハンドブックを有効に活用し、創意工夫を生かした学校評価システムの確立に取り組んでいただきたいと思います。

学校評価システム構築の要となるのは、学校と家庭や地域が情報や意見をやりとりする仕組みをしっかりと根づかせることです。教職員が一丸となってよりよい学校づくりに向けた取組や熱意を保護者や地域住民に伝えることで、学校への理解が深まり、教育活動への支援・協力を得ることにつながっていきます。「トライやる・ウィーク」や「いきいき学校応援団」など、本県の特徴ある教育の取組を通じて培ってきた連携協力の機運を基盤に、学校評価システムの機能を十分活かして保護者や地域住民の学校教育へのさらなる参画と協働が進み、県民すべてがかかわる兵庫の教育につながっていくことを期待しています。

最後に、ハンドブックの発行にあたり、「学校評価システム検討委員会」及び「学校評価ハンドブック作成部会」の委員の方々の尽力に対し、深く感謝申し上げます。

平成16年3月